

CHILDREN'S VOICES

ICAN NEWS LETTER



2020年後期を振り返って

～「子どもの権利条約」に基づいた活動～

アイキャンは、1994年の設立当初より「子どもの権利条約」に準拠した活動を行っています。「子どもの権利条約」とは、すべての子どもに人権を保障する国際条約のことで、日本を含め196の国と地域で締結されています。子どもの権利は、大きく分けて「生きる権利」「育つ権利」「守られる権利」「参加する権利」の4つに分類できます。

フィリピンでの活動を例に見てみると、アイキャンが運営する【子どもの家】は、5～18歳までの身寄りのない子どもたちが安心、安全に暮らせる児童養護施設で、子どもたちの4つの権利を担保します。路上の子どもたちが生活の辛さから自暴自棄となり、危険な薬物に手を染めないよう実施している【路上教育・見守り活動】は「育つ権利」と「守られる権利」を担保します。元路上の子どもたちが就業機会や収入を得て自立することを目的とし、場所や設備を提供し、お菓子作りの技術指導を行っている【カリエカフェ】は、「参加する権利」を担保します。他にも、地域の母親たちと栄養価の高い食事を作る【給食事業】は、子どもたちの4つの権利を担保します。

2020年後期の活動としては、上述の各事業の他、大型台風 22 号の被災者への物資提供（フィリピン）、紛争下の人びとへの物資提供・子どもたちの栄養改善（イエメン）、干ばつ対策としての貯水池建設（ソマリア）、約31,000人（半数は18歳未満）が住む難民キャンプの子どもたちの保護（ジブチ）、小学校から大学において国際理解を促進するための講義やワークショップなどを行う「国際理解教育・講演」活動（日本）等がありました。

年度を通し、新型コロナウイルスの影響で計画通りの展開が困難な状況でしたが、子どもたちの生活向上に対するアイキャンスタッフたちの強い思い、そして、何よりも暖かい応援をいただいたみなさまのお力により子どもたちを支えることができました。心から感謝申し上げます。今後も、子どもたちが権利を享受し、将来にわたり自立した生活を送れる平和な社会の実現を目指し、活動を続けてまいりますので、変わらぬ応援をよろしくお願いいたします。

アイキャン事務局長 筋 健太郎

活動ダイジェスト |

2020年11月～2021年4月のアイキャンの活動

1. フィリピン共和国

<首都マニラ近郊>

- マニラ市で最も貧しい地域であるトンド地区において、住民参加型で給食を提供し、3歳～5歳の子ども87名が栄養価の高い食事を取りました。また、同地区の母親50名に対し栄養研修を3回、母親40名に対し保健研修を1回実施しました。
- パヤタス住民組織に対して、財務管理・内部統制・現地マーケットの開拓に関する助言を3回行いました。
- 児童養護施設「子どもの家」では、政府運営の児童養護施設より、新たに5名の子どもを受け入れました。その結果、合計9名の元路上で生活していた子どもが安全な環境で子どもらしく生活することができました。
- カリエカフェメンバー5名に対し、オンラインを活用した商品販売の助言をしたり、6名に対し、お菓子製作の研修を2回行いました。
- 「子どもの家」に住む子どもたちが、路上で生活する3地域の子ども103名を対象に、施設入所後に実感した自身の変化と教育の重要性を共有する「路上教育」を3回実施しました。

<ミンダナオ島>

- ミンダナオ島ムスリムミンダナオ・バンサモロ自治区（BARMM）における平和構築に関する新事業の立案をするために、バンサモロ暫定自治政府やJICA主催のシンポジウムに参加し、同地区内の武装解除や軍事キャンプ周辺の正常化の動向、社会開発の長期的方針を把握しました。
- オンラインを通して、バンサモロ暫定自治政府、BARMMに属するマギンダナオ州北部の4町、及び教育省との調整を実施しました。



<新型コロナウイルス緊急救援>

- 新型コロナウイルス感染拡大の影響で収入を失った路上の子ども・若者、ゴミ処分場地域で生活する計190世帯に対し、食糧及び衛生用品を配布しました。

<台風22号緊急救援>

- リサール州の避難所で生活する社会的脆弱層（授乳中の母親・乳児・高齢者・障がい者）を抱える184世帯に対して、物資を提供しました。

2. ジブチ共和国

<ジブチ国内3つの難民キャンプにおける活動>

- 子どもたちの状況を把握し適切な対処をするため、家庭訪問946件と、子どもや保護者に対するカウンセリングを5件行いました。
- 難民キャンプ内の青少年ボランティアであるアニメーター研修を4回実施し、延べ71名の若者が参加しました。
- 子ども自身が司会進行を務め、自身の在り方などを考える「子ども議会」を4回実施し、延べ77名の子どもが参加しました。

活動ピックアップ ①

「世界子どもの日」にイベントを実施



2020年11月20日「世界子どもの日」を記念し、ホルホル難民キャンプにおいて、絵の具を使ったペイント活動イベントを開催し、50名の子どもが参加しました。イベントに参加したことで、子どもたちが「世界子どもの日」のことを知り、「ホルホル難民キャンプの子どもでよかった」等のポジティブな感想も聞かれました。



<ジブチ市における活動>

- ジブチ市における難民の子どもたちに関する調査の一環としてジブチ市の難民コミュニティリーダー4名との会議を1回実施しました。
- ジブチの50個の市民団体（参加者97名）に対して、市民団体が協働事業を実施できるようになることを目的とした能力強化研修を2日間実施しました。

活動ピックアップ② 新型コロナウイルス感染対策を強化

新型コロナウイルス流行下でも食糧の提供を安全に行うことができるように、感染予防対策に力を入れました。提供時にはマスクを配布し、入口で検温・消毒を行いました。また、啓発リーフレットの配布や音声アナウンスを用意し、口頭でも啓発を行う職員を配置しました。始めは感染症対策に消極的だった裨益者も見られましたが、提供の度に啓発を重ねた結果、自身の日常生活でも感染症対策を実施するようになった裨益者もいると報告を受けています。



3. イエメン共和国

- 12月～3月にかけて、タイズ州において、主に国内避難民の2,180世帯（約15,260名）を対象とする食糧提供を実施しました。

4. ソマリランド共和国

- 首都ハルゲイサ市近辺のグマール地区とガラビス地区において、2ヶ所の水源設備の建設を行いました。

5. 能力強化事業（日本）

- 中学から大学までの教育機関で、オンラインによる講演を計4回、452名に対し行ない、フィリピンの路上の子どもたち、及びパヤタスのフェアトレード生産団体、イエメンやシブチの紛争や難民について話しました。
- NGO相談員として、教育機関、及びJICAの座談会において計233名に対し、オンライン講演を5件実施しました。また、組織設立や事業立案から、NGOの活動やボランティアなど幅広い質問・相談を、計695件受け付けました。
- 日本事務局で2名のインターンを受け入れ、クラウドファンディングの立ち上げ・広報・フェアトレード事業補佐・街頭募金活動事業担当として活動しました。
- 長野県上田高等学校に対し、オンラインによる海外研修を1回実施しました。



6. ボランティア・寄付活動推進事業（日本）

- 書き損じハガキ(計63,408枚)や、古本や不要品(寄付件数73件)の収集活動を行いました。
- クラウドファンディングを実施し、日本の一般市民110名の方の応援により、目標金額100万円を超える1,063,500円が集まりました。
- 2021年4月末時点のマンスリーパートナーは296名で、今期、マンスリーパートナーに新規でお申し込みいただいた方は20名でした。
- 「フィリピンの新型コロナウイルスの影響を受けた人々を応援する街頭募金」を2回、「フィリピン路上の子どもたちを応援する街頭募金活動」を2回実施し、延べ55名のボランティアに参加頂き、計331名の方々が募金してくださいました。

※緊急事態宣言の期間中は実施を自粛しました。

- 延べ126名が事務局ボランティアを行ってくださいました。



7. 国内自然災害（長野）

- 長野県長沼地区の被災した住民のみなさまよりお預かりした写真を、長野県社会福祉協議会及び長野市の6つの福祉事業所と連携し、福祉就労の一環として写真洗浄作業を行いました。
- お預かりした61件（34,972枚）の写真のうち、25件（7,911枚）の返却が完了しました。

活動ピックアップ③ クラウドファンディング目標達成！



新型コロナウイルスの影響を受けたフィリピンの人々と日本を繋ぐクラウドファンディングを実施し、目標金額を達成しました。集まった資金で、ゴミ処分場で暮らすお母さんたちが運営するフェアトレード団体SPNPからマスクの購入、路上の子どもやゴミ処分場地域の住民へ食糧・物資を配布する事ができました。

特集 | フィリピン

台風22号緊急救援

～避難所で活かされるアイキャンの強み～

2020年11月11日から12日にかけて、台風22号（現地名：ユリシーズ）がルソン島に接近し、大雨と猛烈な風の影響で、マニラ首都圏及び近隣州において大規模な洪水が発生しました。アイキャンでは、その中でも壊滅的な洪水被害を受けたリサル州ロドリゲス町カシグラハン地区の避難所において、支援から置き去りにされていた社会的脆弱層（授乳中の母親、乳児、高齢者、障がい者）への物資提供（栄養サプリメント、オムツ、体拭きシート）を行うとともに、避難所の運営補助を行いました。事業の成果をアイキャンの強みとともに振り返ります。

強み1 最も必要なニーズを見極める

避難所の運営補助は、大規模な救援物資の提供や損壊した建物の修復等の介入に比べて、効果の見えにくい活動ですが、災害後の避難所の状況、他機関・他団体による援助状況を鑑みた結果、社会的脆弱層への物資提供に加え、最も必要な支援内容であると判断しました。



強み2 地域の災害対策能力を強化する

避難所運営に必要なノウハウ（世帯数の動向を把握することの重要性と効率的な把握方法・住民リーダーの組織化・救援物資の一元的管理等）を、将来的にも災害対応の責任を持つ避難所運営者に伝えることにより、地域の災害対応能力の向上に繋げることができました。



強み3 被災者と「ともに」活動する

アイキャンの介入は、あくまでも側面的支援に留め、避難所の運営担当者自身が、避難所運営における課題を認識し、改善方法について考えることを促進しました。一方的に押し付けるのではなく、「ともに」活動する丁寧な事業プロセスを経たことで、災害前よりも強い地域への復興に貢献することができました。



強み4 人々の「こえ」に耳を傾ける

本事業開始前は、避難所として使われている高校の教師が、避難所で暮らす人々の教室の使い方に不満を抱えており、両者の関係性が芳しくありませんでした。しかし、本事業において共有スペースの掃除当番が決められ、学校を清掃する避難所の人々の姿が見られたことで、高校教師の不満も解消され、両者の関係性も改善されていきました。



事業地の声

フィリピン 台風22号緊急救援事業



フィリピン・リサール州
リッチーさん

- ・ リサール州ロドリゲス町カシグラハン地区のデイケアセンター（保育園）で教師をしている
- ・ 台風22号災害の際には、ロドリゲス町の福祉課より、避難所運営担当を任される

リッチーさん：災害発生直後の避難所は混沌とした状況でした。避難所の屋内外にはゴミが溢れかえり、ハエが至る所に発生していました。また、限られた物資を巡って頻発する被災者同士の喧嘩・・・私は毎日途方に暮れていました。そんな折に、アイキャンが私たちの相談のしてくれました。アイキャンからは清掃用具や新型コロナウイルス感染予防備品を提供してもらっただけでなく、避難所の効率的な運営、避難所運営事務局による救援物資の一元管理、被災者のまとめ方を教えてもらいました。この地域は毎年災害が発生します。今後も、私たち住民がこの地域の災害対応を担っていきますが、アイキャンから学んだことを実践していきたいと思います。



アイキャン・マニラ事務所
マデットさん

- ・ 2008年にアイキャンへ入職
- ・ パヤタスゴミ処分場における栄養・保健改善事業、路上の子どもたちの保護、災害緊急対応など幅広い事業に従事している
- ・ 看護師免許を持つ

マデットさん：初めて避難所に訪問した際、被災者が衛生環境の悪い中で、3密の状態で生活していたので、感染症の拡大等の二次災害が起きってしまうと思いました。避難所運営担当のリッチーさんや被災者の人々との話し合いを通して、どう現状を改善したらよいのか分からない状況にあると感じました。そのため、アイキャンは第三者として異なる立場の方々の話し合いを設定し、住民が一つの目的に向けて活動できるよう側面的支援や助言を実施しました。ある被災者から、「アイキャンは他の団体とは違って、独特な方法で私たちを支えてくれた」と聞いた時、非常に嬉しく思いました。私たちが大切にしている価値「ともに活動する」を実践することができたのだと思いました。

パートナーの声 | マンスリーパートナー様より



久野 美奈子 様

2019年まで日本事務局で勤務していた元アイキャン職員です。在職中は、寄付者の方やボランティアさんとのやりとり、その他の事務仕事等すべての仕事が生業地の人々の笑顔につながると日々感じることができ、やりがいを感じながら過ごしていました。フィリピンの事業地にも何度か訪れましたが、そこで出会った人々の、人を思いやる温かい心と明るい笑顔は今でも忘れられません。退職後も自分に「できること」は続けたいと思い、マンスリーパートナーとして活動を応援しています。会報などで現地の様子を知ることを楽しみにしています。

マンスリーパートナー大募集！

～月1,000円（1日33円）から始める社会貢献～

マンスリーパートナーは毎月1,000円（1日あたり33円）から、一定額のご寄付を自動引き落としによってご寄付いただき、アイキャン事業地の子どもたちの活動及び運営に活用する制度です。マンスリーパートナーのみなさまのお誕生日には、事業地の子どもやフェアトレード生産者からの素敵なプレゼントが届きます。ぜひ子どもたちの未来を作る活動のパートナーになって、継続的に子どもたちを応援してください！

例えば、フィリピン「子どもの家」では…

アイキャンが運営する児童養護施設「子どもの家」では5～18歳までの身寄りのない子どもたちが生活しており、衣食住はもちろん、通学や医療、自立訓練を実施し、子どもたちの夢や目標に向かって自立できる力を養っています。過去のトラウマや将来への不安がある子どもに対しては、ソーシャルワーカー（社会福祉士）によるカウンセリングを実施し、彼らが心身ともに健康に育つよう、常駐のハウスペアレント（寮母・寮父）とアイキャン職員が見守っています。



月1,000円で…

「子どもの家」の子ども3名が健康に過ごすための1ヶ月分の医療費になります。



月1,000円を1年間続けると…

「子どもの家」の子ども17名の1か月分の学用品費になります。



月1万円を1年間続けると…

「子どもの家」の子ども1名の1年間の衣食住が守られ、栄養のある食事を取ることができます。

■ご寄付の方法■

- ・クレジットカード：CANPAN(日本財団)の決済サイトより、今すぐにお手続きができます。
- ・口座引き落とし：会報同封の振込用紙からお申込みいただくか、事務局へお問い合わせください。詳しくは、アイキャンHPからもご確認いただけます。（最下部のQRコードを読み取りください。）

事務局からのお知らせ

イエメン国内及びソマリランドでの活動終了のご報告

イエメンでの物資提供事業、及びソマリランドでの水源設備の建設活動は2021年4月30日をもって終了いたしました。みなさまには長らくにわたり活動を応援いただきましたことを心より感謝申し上げます。

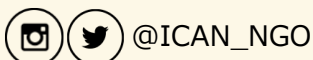
今後は、ジブチ国内の難民キャンプでの活動を通じ、イエメン・ソマリアを含む地域から逃れ難民となった子どもたちを対象に、保護活動を継続してまいります。又、活動終了に伴い、2021年5月25日以降イエメン事業にお寄せ頂きましたご寄付はジブチでの活動の一環として活用させていただきます。引き続きイエメン・ソマリア難民の子どもたちを応援いただけたら幸いです。



特定非営利活動法人アイキャン（ICAN）

アイキャンは1994年より、貧困削減や紛争解決などに取り組む国際NGOです。

住所：〒460-0011 愛知県名古屋市中区大須3丁目5-4 矢場町パークビル9階
TEL/FAX: 052-253-7299（火～土 12:00～19:00）
MAIL: info@ican.or.jp WEB: https://ican.or.jp/



WEB QR